

平成 21 年 5 月 27 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2005～2008

課題番号：17520173

研究課題名（和文）アメリカ文学におけるエスニシティ（ethnicity）の地政学的研究

研究課題名（英文）A Geopolitical Study of Ethnicity in American Literature

研究代表者

田中 久男（TANAKA HISAO）

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30039135

研究成果の概要：フレドリック・ジェイムソンの地政学（Geopolitics）という文化研究概念を援用して、人種（民族）と地域との構造化された複合的な絡まりを究明することによって、アメリカ文学におけるエスニシティ表象の特徴をかなりの程度明らかにすることができた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	700,000	0	700,000
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,200,000	450,000	3,650,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：1. アメリカ文学 2. 地政学 3. エスニシティ 4. 人種 5. 地域

1. 研究開始当初の背景

（1）平成 17 年度から 4 年計画で出発した本研究「アメリカ文学におけるエスニシティ（ethnicity）の地政学的研究」は、それまでの 8 年間に行ってきた「現代アメリカ文学におけるフォークナーの遺産の体系的研究」と「アメリカ文学における地方主義（regionalism）の体系的研究」の遂行により蓄積できた多くの図書と知見と成果を活用し、研究の継続性を大切にするという原則を貫きながら、同時に地政学という概念を文学研究に導入することにより、新しい研究方法の開拓を目指した。

（2）従って、アメリカ合衆国の地域

（region）区分として使用される東部、南部、中西部、西部という伝統的な枠組みは研究基盤として使用したが、その一方で、それらの地域間で長年にわたり形成されてきた社会文化的なヘゲモニー力学の研究と、人種というカテゴリーにおいて暗黙の序列化が社会的、経済的に構造化されてきた様態の研究とを結合することによって、従来の単独の視点からでは追求しにくいエスニシティとリージョンとの複合的な絡まりの様態を、アメリカ文学の具体的なテキストの表象において解明できるのではないかというのが、本研究を開始した当初の目論見であった。

2. 研究の目的

本研究は、地政学（Geopolitics）というフレドリック・ジェイムソンの文化研究概念を援用して、人種（民族）と地域との構造化された複合的な絡まりを究明することによって、アメリカ文学におけるエスニシティ表象の特徴を明らかにすることを目的としたものである。すなわち、東部、南部、中西部、西部というアメリカ合衆国の地域区分の枠組みは保持し、それらの地域間で長年にわたり形成されてきた社会文化的なヘゲモニー力学（これが本研究で採用している地政学的見地）の研究と、人種（民族）というカテゴリーにおいて社会的、経済的に構造化されてきた序列化（階層化）の様態の研究とを相補的に結合することによって、伝統的な単独の視点からだけでは究明しにくいエスニシティとリージョンとの複合的な絡まりによって出来上がってきた特徴が、アメリカ文学の中でどのように表象されているのかを追究し解き明かすことを目指したものである。

3. 研究の方法

(1) 2005年度は東部を中心に、アメリカン・ルネサンスを形成したニューイングランド地方のホーソン、メルヴィル、エマソン等のキャンオン作家のテキストにおいて、エリート集団であるワズプ（WASP=White Anglo-Saxon Protestant）の特徴を、特にピューリタニズムの支配力という面から究明した。次に、かつてはワズプ主導の社会で周縁化されていたアイルランド系の作家たち、例えば、フィッツジェラルドやオニール、あるいはマラマッド等のユダヤ系の作家たちのテキストに、彼らの活躍基盤である地域が、エスニシティ表象とどのように関連しているのかを地政学的な視点から読み解こうとした。

(2) 2006年度の課題である「南部を中心にしたアフリカ系アメリカ作家たち」をテーマとして、まず南部を活動拠点としたアリス・ウォーカー、ニューヨークや中西部を拠点としたトニ・モリスン、ジェイムズ・ボールドウィン、ジーン・トゥーマー、南部と北部の両地域にまたがるゾラ・ニール・ハーストン、ラルフ・エリスン、リチャード・ライト等の作家を取り上げ、彼らの文学テキストにおけるエスニシティ表象と、地域のイメージやアイデンティティの感覚がそれらに及ぼす影響を考究した。これには伝統的な人種と階級、あるいはブラック・ナショナリズムや反知

性主義の問題も絡んでくるので、文学研究書だけでなく、その隣接領域の社会学や歴史学、あるいは民俗学や宗教学の研究書も資料として駆使し、本年度の課題を広く深く研究するためのインフラ整備に努めた。

(3) 2007年度の課題である「西部を中心にした作家たち」をテーマとして、まずアメリカ文学のリンカーンと言われる国民的作家マーク・トウェイン、作家経歴の前半において、カリフォルニアを活動拠点としたジョン・スタインベック、アラスカのクロンダイクでの生活経験を基盤にしたジャック・ロンドン、カリフォルニアを舞台に創作したアルメニア系移民のウィリアム・サロイヤン、環境保護運動団体シエラクラブの初代会長を務めたジョン・ミューア、50年代のカウンター・カルチャーの象徴である「ビート・ジェネレーション」の代表格詩人アレン・ギンズバーグや、最近のエコロジー思想の先導者である詩人ゲーリー・スナイダー、ネイティブアメリカン・ルネサンスの代表作家レスリー・マーモン・シルコウ、さらにはアジア系作家の中心的存在の中国系マクシーン・ホン・キングストン等の作家を取り上げ、彼ら/彼女らの文学テキストにおけるエスニシティ表象と、地域のイメージやアイデンティティの感覚がそれらに及ぼす影響を考究した。これには伝統的な人種と階級、あるいはアメリカ文学における特異な地域としての西部や反知性主義の問題も絡んでいるので、文学の隣接領域の研究書も購入して、上記目的を広く深く研究するための土台固めに努めた。

(4) 2008年度は、上述の研究成果を踏まえて、残された地域である中西部を活躍基盤とする作家たちを研究対象とした。具体的には中西部の地政学的特徴や歴史的背景を究明し、それをもとに、オハイオ州出身のアフリカ系のノーベル賞作家トニ・モリスン、シカゴを物語化したカトリック作家J.T.ファレル等、アメリカ社会でエスニック・グループとして周縁化されている作家に焦点を合わせ、比較のための背景幕としてワズプ作家アーネスト・ヘミングウェイやシャーウッド・アンダソンの文学を援用した。同時に、本研究課題であるエスニシティ表象と地政学の連関性という観点に近い分野で活躍しているインディアナ州パーデュー大学のジョン・N. デュヴォール教授、ネブラスカ大学カーニー校プレーリー研究所のチャールズ・A・ピーク教授、ヴァージニア大学のハロルド・H. コルブ名誉教授を訪問し、研究成果のレビューを受け、意見や情報を交換する面談を持つことができた。そして本年度には運良く、エスニシティ表象にも関係のあるプリンストン大学コーネル・ウェスト教授が5月に来日して

、広島女学院大学で講演をした際に意見交換も行って、本研究の方向の妥当性と意義を確認できた。

4. 研究成果

(1) 東部はアメリカ合衆国の建国以来、歴史的に、また象徴的にヨーロッパ的な文化の牙城として君臨してきたので、20世紀中葉まではアメリカの経済的、文化的中心地域としての力を発揮してきた。19世紀中葉のアメリカン・ルネサンスの代表的作家であるホーソン、メルヴィル、エマソンのテキストにおいて、アメリカ文化を主導してきたワズプ(WASP) 集団のヘゲモニーは厳然と存在し、20世紀のモダニズム文学の先導者とも評価できるフィッツジェラルドやオニール等のアイルランド系の作家たちのテキストには、カトリック文化の血を引く故に、ワズプが主導権を握るアメリカ社会では、隠微ながら内面の葛藤があったことが、彼らの作品やエッセイに見て取れる。マラマッド等のユダヤ系作家たちは、東欧からの移民集団の代表として、東部の都会においてさらにいっそう悲惨な状況を強いられたが、その様相が彼らの文学表象においても確認できた。

(2) 南部は南北戦争の敗北によって、歴史的には逆賊という汚名を着せられ、それによって、アメリカ社会ではお荷物的な存在として、政治的にも経済的にもその後遺症に苦しみ続けた。南北戦争以前には享受していた文化的ヘゲモニーを、敗北によって北部に譲ることを余儀なくされ、経済的には停滞し、後進地域に甘んずることになったが、そうした地政学的な力学が、例えばウィリアム・フォークナーの文学には歴然と読み取れる。本研究では、「南部を中心にしたアフリカ系アメリカ作家たち」という、これまで十分照射されなかったテーマに的を絞り、ウォーカー、モリソン、ボールドウィン、トゥーマー、ハーストン、エリスン、ライト等の文学テキストにおけるエスニシティ表象が、アフリカン・アメリカンとして単一的に類型化されることはなく、各地域の歴史化されたイメージやアイデンティティの感覚によって、かなりの差異が生まれていることを解明した。但し、1950年代の公民権運動が及ぼした政治的、経済的影響によって、人種偏見の強い後進地域の南部という伝統的なイメージが、徐々にではあるが変容している様相が、どのように文学的な表象として反映しているのかについて

の研究は、今後追究すべき課題として残った。

(3) 西部は、空間的、物理的フロンティアが消滅したことが確認された1890年以降も、アメリカ国民の魂の故郷として、作家の想像力に独特な影響を与えてきた。サリンジャーの『ライ麦畑で捕まえて』の主人公ホールデンが、西部を疲れた魂を癒してくれる場所と捉えているように、西部は物理的トポス以上の精神的な価値を象徴する場所としての魔力を持っている。しかし、この見解が白人中心の歴史記述(historiography)によって形成された西部観であることを、シルコウや、ジェラルド・ヴィズナー、トーマス・キング等のネイティブ・アメリカン作家たちの歴史の再構築を目指す創作活動や作品を通して確認できた。ネイチャーライティングや環境文学というジャンルにはおさまらないネイティブ・アメリカン作家たちの「ポストインディアン」、「サバイバンス」(サバイバルとレジスタンスの結合概念)という革新的な観点を導入することにより、さらには、原爆文学というジャンルをも導入することにより、伝統的な西部観に内在する歪みやひずみを修正して相対化する視線の必要性を強く認識した。

(4) 南部からの逃亡奴隷が自由州やカナダに逃亡するのをほう助する秘密組織である「地下鉄道」の歴史資料館兼博物館である「全国地下鉄道自由センター」がオハイオ州シンシナティに設立されているという事実が示唆するように、かつての自由州と奴隷州の境界線を成すオハイオ川は、歴史的にも、またそれを反映するアメリカ文学においても、ミシシッピ川に劣らず、重要な役割を演じてきた。たとえば『アンクル・トムの小屋』、『ハックルベリー・フィンの冒険』、モリスンの『ピラヴィッド』において、オハイオ川が陰に陽に文学的に表象されていることが、それを証明している。しかし、トウエインやストウ夫人と、モリソンでは、エスニシティ表象において、その出自に絡まる地域的背景と、時代の隔たりの故に大きな違いがある。エスニシティ表象という観点から、ミシシッピ川とオハイオ川がアメリカ作家の想像力に与えた影響の異同を追究することは、本研究の遂行の過程で浮上してきた将来性のある興味深い興味深いであるだけに、今後、アメリカ文学の地政学的研究の中で、地道にその可能性を伸展させ、研究を進化させていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 田中久男「ミシシッピのEmmett Till事件と「乾燥の九月」—文化のかたちとしての構造化された暴力」『アメリカ研究(日本アメリカ学会機関誌)』40号(2006) 39-56。査読有
- ② 田中久男「Home, Homelessness, and New Regionalism—ヘミングウェイが映し出すディアスポラ・フォークナー」『ヘミングウェイ研究(日本ヘミングウェイ協会機関誌)』7号(2006) 11-23。査読有

〔学会発表〕(計1件)

- ① 田中久男、特別講演「アメリカ文学における階級表象——ジェイムズ、フィッツジェラルド、フォークナー」九州アメリカ文学会第54回大会(佐賀大学)、2008年5月10日。

〔図書〕(計3件)

- ① 『アメリカ文学における階級—格差社会の本質を問う』田中久男監修、英宝社、2009. 371pp。田中久男「序論 アメリカ文学における階級—歴史的な概観と研究の問題点」3-25。
- ② 『反知性の帝国—アメリカ・文学・精神史』巽孝之編、南雲堂、2008. 312 pp。田中久男「フォークナー文学と反知性主義—構造化されたヴィジョン」224-253。査読有
- ③ *History and Memory in Faulkner's Novels*. Ed. Ikuko Fujihira, Noel Polk, and Hisao Tanaka. Tokyo: Shohakusha, 2005. pp.303. "History, Memory, and 'Rememoration': Faulkner's Civil War Spectrology and Quentin Compson." 14-30.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 久男 (TANAKA HISAO)

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30039135

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者